

## ご挨拶

安全なまちづくり推進会議のみなさま、はじめまして。追手門学院大学学長補佐の原田章と申します。この度、推進会議の学識者として参加させていただくことになりました。この会議がより実り多きものになるよう、微力ではありますが、尽力いたしたいと思っております。

私は、19歳のとき、大学進学を契機に出身の岡山県岡山市を離れ、大阪府吹田市で下宿生活を始めました。大阪大学人間科学部で心理学(行動学)を学び、同大学院に進学後は、行動計量学の分野に進みました。平成6年に大学教員となり、いくつかの大学・短期大学で勤務した後、平成10年から現在の大学に所属しております。

また、平成30年2月に立ち上げられた大阪府警防犯対策高度化協働研究会の座長として、行政、警察、研究者が一緒に悩みながら防犯に関する問題を考える活動を進めてきました。その中で、スマートフォンのながら見歩きの怖さを体感できるVR動画を作成したり、それを使った防犯教室を実施したり、防犯寸劇をより意図が伝わりやすくなるように改善したりといった活動を他の研究者とともに行ってきました。研究者はさまざまな視点や方法論を持っています。そこに防犯の問題を投げかけてもらうことで、いろいろな工夫や改善ができることに研究会の意義を感じています。

さて、私には忘れられない学生時代の苦い経験があります。地元に戻って友人と二人で飲んでいたとき、隣のおじさんがいきなり声をかけてきて、私たちが大学で何を勉強しているのか聞いてきました。友人は機械工学で、私は心理学と答えたのですが、そのおじさんは「工学は世のためになるけど、心理学なんか役に立たん！けしからん！」と怒りました。20年以上前の話になります。今の私であれば、冷静にそんなことはないと言論できるのですが、20歳そこそこだった私はおじさんの勢いに負けて黙り込んでしまいました。

また、私の研究者としての態度は学生時代の恩師に影響を受けています。恩師は、九官鳥の音声模倣について研究している方でしたが、その研究から得られた知見を、喉頭ガンで声を失ってしまった人の人工声帯に応用していました。「自分の研究や知見が社会の役に立つチャンスがあるなら、必ず積極的に参加しなさい」とおっしゃっていました。

この推進会議に参加させていただこうと思ったのも、自分に知見や方法論が役に立つならと考えたからです。犯罪学の専門家だ…とは言えませんが、データの測定方法や計量的な分析方法・解釈方法については多少貢献できるのではと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

追手門学院大学 学長補佐  
原田

